

平成29年度
東京都写真美術館作品資料収蔵委員会
作品資料評価部会

平成29年11月14日（火）
東京都写真美術館 4階会議室

午後 5 時00分開会

富岡文化施設担当課長：それでは、皆様おそろいですので、始めさせていただきます。

改めまして、本日は大変お忙しい中、御出席いただきましてどうもありがとうございます。

ただいまから「平成29年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会作品資料評価部会」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部文化施設担当課長の富岡と申します。司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明に入ります前に、東京都写真美術館の荒木副館長から御挨拶申し上げます。

荒木副館長：皆様、本日はまことに忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

日ごろの写真美術館への御協力に対しまして、この場をおかりしまして御礼申し上げます。

先ほど、今年度の収蔵委員会が無事終了いたしました。この後、委員の先生方によってそれら作品の価格等につきまして適正かどうか御審議いただき、また実際に作品も見てくださいたいと思います。

美術館の状況を簡単に御説明しますと、大変好調に推移しておりまして、8月末には総合開館以来700万人目のお客様を迎えます。ことしも38万人を目標にしておりますが、20万人を超えて折り返したところでございます。

作品の収蔵というのも、コレクション、展示・展覧会とともに重要な美術館の両輪の一つでございます。将来的には都民の貴重な財産ともなっております。

委員の先生方のお力添えを得まして、この委員会がスムーズに進みますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

富岡文化施設担当課長：それでは、御出席いただきました委員の皆様を紹介させていただきます。向かって私の左側から紹介させていただきます。

まず、荒木委員でございます。

荒木委員：よろしくお願いいたします。

富岡文化施設担当課長：続いて、矢野委員でございます。

矢野委員：よろしくお願いいたします。

富岡文化施設担当課長：南委員でございます。

南委員：よろしくお願いいたします。

富岡文化施設担当課長：松永委員でございます。

松永委員：よろしくお願いいたします。

富岡文化施設担当課長：高橋委員でございます。

高橋委員：よろしくお願い致します。

富岡文化施設担当課長：続きまして、事務局の職員を紹介いたします。

写真美術館事業企画課長の笠原でございます。

笠原事業企画課長：笠原です。よろしくお願いいたします。

富岡文化施設担当課長：よろしくお願いいたします。

これから議事に入りたいと思いますけれども、それに先立ちまして当部会の公開について申し上げます。

当部会ですが、「東京都写真美術館作品資料収蔵委員会設置要綱」第11という規定によりまして、原則公開となっております。そのため、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上で公開しております。一方で、当部会におきます評価対象資料の価格評価に関する議事については、同要綱第11の第2項（1）の規定によりまして、非公開となっております。

なお、当部会の議事録につきましては、同要綱第11の第2項の規定によりまして、作品資料収集決定後に公開を予定しております。公開に当たりましては、支障のある内容がないかどうか、事前に確認させていただきたいと考えております。

なお、委員の皆様の個別の価格評価については非公開となります。

それでは、議事に入りたいと思います。写真美術館の笠原より、本日、皆様に評価いただきます資料の説明をいたします。よろしくお願いいたします。

笠原事業企画課長：先ほど収集部会でこちらからの提案を全て御了承いただきました。この評価部会では、価格が適正かどうか御審議いただきます。

説明の前に、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず、会議次第、委員名簿、座席表、「東京都写真美術館作品資料収蔵委員会設置要綱」がございます。

次に資料として、「収蔵作品資料点数一覧表」、個表といたしまして「東京都購入案件 個表」、「東京都写真美術館購入案件 個表」、「寄贈・寄託 個表」の3つのつづりがございます。

その他、お手元に評価書が、東京都購入案件のもの、東京都写真美術館購入案件のもの、寄贈・寄託案件のものが3種類ございますので、御確認いただけたらと思います。評価書は1つのつづりになっておりますけれども、3つに分かれております。よろしいでしょうか。

それでは、簡単な説明をさせていただいて、実見をし、その後、何か御質問がありましたらお受けして、それで評価に入っていただくという手続になります。

この一覧表の資料で御説明いたします。これをお手元に御用意ください。

今回の東京都写真美術館の収集対象は、購入は国内写真作品が189点、海外写真作品が8点、映像作品資料が9点、合わせて206点となります。

寄贈ですけれども、写真美術館独自の状況がございまして、下に参考ということで書いてございます。これは東京都写真美術館支援協議会というのを持っておりまして、約260社からかなりの額のファンドレイジングをしております、それで企画展を開催しており

ます。

そのファンドレイジングの中から年間1,000万円強の予算を東京都写真美術館として購入いたしまして、収蔵委員会で承認の後に東京都に寄贈という形になりますので、この一番上の表では寄贈の中に東京都写真美術館の購入分が含まれております。東京都写真美術館の購入分は、国内写真作品が2点、海外写真作品が41点、映像作品資料が1点ということで、計44点です。それを入れない寄贈分が、国内写真作品が346点、海外写真作品が12点、映像作品資料が57点、合わせて415点となります。これが全て承認されますと、東京都写真美術館のコレクションの数は、国内写真作品が2万2,810点、海外写真作品が5,695点、映像作品資料が2,443点、写真資料が3,725点、合わせて3万4,673点となる予定でございます。

次のページ以降に収集の推移を御参考までにあらわしておりますので、3枚めくって作品購入付議案件概要をお開きください。

写真美術館は非常にオーソドックスな収集の手段をとっております。一つは、展覧会と連動して収集するという事。もう一つは、ここに書いてございますけれども、少なくとも3割以上はギャラリー、御本人、御遺族などに交渉いたしまして価格を下げさせていただいて、パーマネントコレクションということで購入させていただいている。プラス、購入時に寄贈ということで、寄贈もかなり積極的にお願いしているという形になります。

それでは、上から御説明いたします。

荒木経惟さん。展覧会が終わったところですが、写真美術館の重点収集作家です。既に「写真論」52点、「センチメンタルな旅」119点ありますけれども、今回は「冬の旅」ということで、陽子さんの死ぬ直前、それから死後の状況を撮った荒木さんの代表作です。これを収集することにより、「センチメンタルな旅」の概要が写真美術館の収集作品で見られることとなります。

片山真理さん、次の金山貴宏さん、3人飛ばしまして鈴木のみみさん、その次の武田慎平さん、次のページに行きまして、3番目の吉野英理香さん。この5名は、12月から始まります「日本の新進作家」展で作品を展示する予定の作家でございます。

美術館の展覧会ですので、新進作家と申しましても、どちらかというと中堅の若い作家さん、もしくは新進作家の中のベテランという、今、地下で展示しております写真新世紀のような全くの新進ということではございませんけれども、この5人の作家を今回収集対象としております。ほとんどの方たちが購入時寄贈で、購入を決めると寄贈を考えてくださるということでオファーさせていただいております。

志賀理江子さん。平成30年、来年の年度末ですが、個展の開催を予定しております。写真美術館では「CANARY」のシリーズ13点、「Lilly」のシリーズ11点を既に収集しておりますけれども、これも「新進作家」展を2007年にやったときに作家からの寄贈として受けておりますので、今回の「螺旋海岸」は彼女の代表作ですが、今回の収集が購入としては初めてになります。

嶋田忠さん。個展を企画しております。嶋田忠さんも既に写真美術館は20点収集しております。

杉浦邦恵さん。平成30年、来年ですけれども、個展を企画しております。杉浦邦恵さんの作品は5点、ボタニックのシリーズを中心にして収集しております。

次の鈴木のみぞみさん、武田慎平さんは、先ほど言ったとおりです。

中平卓馬さん。中平卓馬さんは、御存じのように「プロヴォーク」の代表的な作家ですけれども、その代表的な作品については御本人が消去されてしまったということで、ほとんどネガは残ってございません。写真美術館としては、「1968年」展という展覧会を数年前にやったときに、数少ない残ったネガからその当時のものを10点収集しておりますけれども、中平卓馬さんの作品はそれだけにとどまります。もっと収集していい作家ですけれども、そういった事情もあって、横浜美術館で展示をしている全く新しい作品というのはやはり展覧会を開催しているところが中心になって収集するべきなのではないかということで、今回は中京大学のアートギャラリーC・スクエアというところがございまして、そこで中平さんがかなりお元気なときに御本人でセレクションをした展覧会の出品作品を、中京大学の組織ではなくて、森本さんという、そこでやっていた先生が預かっていて、それを御遺族に返して、御遺族からそれを購入させていただくという形をとっております。少なくとも本人の意思で選ばれた作品ということで、貴重なものではないかと思えます。

長島有里枝さん。今、2階で展覧会を開催しております。購入時寄贈がございまして。

次のページ、浜口タカシさん。今回、初めての収集です。日本の昭和を代表するフォトジャーナリストの作品で、安保、三里塚等々の作品です。25点、収集時寄贈としてビンテージプリントの寄贈のオファーをいただいております。

平敷兼七さん。沖縄の展覧会のグループ展を企画しております。そこに出品予定の作品でございまして。

吉野英理香さんは「新進」展です。

金玉善さん。彼女は来年の「アジア現代写真」展に出品予定作家です。済州島に在住の韓国ではミッドキャリア以上の評価を得ている作家です。

金仁淑さん。金仁淑さんは、何年か前の荒木さんの展覧会、森美術館でやった子供の展覧会に出品をしていましたけれども、金仁淑さんは在日の3世で、現在ソウル在住でございまして。韓国と日本のアイデンティティーについて、自分自身の家族の問題を扱っています。

次に映像作品です。出光真子さん。出光真子さんは、実験映画の日本のパイオニアと言っている作家だと思いますけれども、去年から収集しております。去年、ことしで大体出光さんの作品を網羅できるような収集を考えております。ことしの映像祭に出品を予定しております。

釜利子さん。去年の映像祭に出品をしていただいた作家です。

金仁淑さんがもう一度出てきましたけれども、金仁淑さんは写真と映像の組み合わせで

作品をつくってありまして、映像作品の収集でございます。

次のページに参ります。これは東京都写真美術館購入案件です。基本的には、東京都写真美術館の購入案件は大体1,000万円強の予算を持ってございますけれども、海外に流出してしまうような19世紀の作品を中心に収集を考えております。

内田九一さん。写真美術館では95点、既に持ってございます。名古屋城を写したものです。

田中美代治さん。田中美代治の磐梯山は有名ですけれども、これも4点持ってございます。

Antho-nius Franciscus Bauduin。名刺判写真ですけれども、3点。これは、今年度の最後の「写真発祥地の原風景：長崎」展に出品予定の作品です。

次に海外作品、Beatoです。Beatoは、写真美術館は221点持ってございます。37点、今回、平成31年の「写真の起源 英国編」に出品予定の作品でございます。

Numa Blanc。フランスの作家ですけれども、1点。これは万国博覧会のために渡仏した栗本と子息の肖像写真でございます。

次に映像作品、横溝静さんの作品です。これは、来年の2月に映像祭が開催されますけれども、そこに出品予定の作品でございます。

次に寄贈案件でございます。

荒木経惟さんは購入時寄贈でございます。

片山真理さん、金山貴宏さんも「新進」展の作家で、購入時の寄贈でございます。

川上重治さんは、1960年代のドキュメンタリー写真ですけれども、御遺族よりお申し出でございます。

嶋田忠さん。購入時の寄贈でございます。

鈴木のぞみさん、武田慎平さんも「新進作家」展で購入時の寄贈でございます。

中平卓馬さんも購入時の寄贈でございます。御遺族よりでございます。

長島有里枝さん、浜口タカシさんも購入時の寄贈でございます。

次のページに参りまして、平敷兼七さん。購入時の寄贈でございます。

山崎博さんは、ことしの3月から5月にかけて展覧会を開催しました。去年購入いたしました。山崎博さんにつきましては、展覧会の後に残念なことに亡くなられてしまいましたけれども、ここ数年、東京都写真美術館と武蔵野美術大学美術館でかなり調査をいたしまして、2つの美術館で購入と寄贈で山崎先生の全貌がわかるようなコレクションをすることで準備をしまいいりまして、今回の寄贈を受けますと、大体それが達せられることとなります。

次に、山本誠陽さんです。これは、写真美術館で毎年3月から5月まで19世紀の写真の展覧会を、調査の展覧会ですけれども、続けておりましたので、一般のお客様からお申し出をいただいたものです。

次の吉野英理香さんは、購入時寄贈、新進展の出品作家です。

作家不詳、19世紀の展覧会ですけれども、これも一般のお客様からのお申し出です。

Beatoは、平成29年の「写真発祥地の原風景：長崎」展に出品予定作品です。 Ken Ratner

さん。これは寄贈申し入れでございます。

金玉善さんと金玉善さん、出光真子さんは、購入時寄贈でございます。

次のページに参ります。おおえまさのりさんは、ことしの映像展「エクспанデッド・シネマ」展に出品の作品の寄贈でございます。

岡部道男さんは、今年度の映像祭に出品の作品の予定で、購入時の寄贈でございます。

峯利子さんも購入時寄贈でございます。

真鍋博さんは、同様に「エクспанデッド・シネマ」展に出品をしていただいた作品です。

山崎博さんは、もう一度出てきますけれども、これは写真と映像の作家ですので、映像作品がここに出てきております。

横溝静さんも購入時寄贈でございます。

次のページ、寄託案件です。写真美術館は都市型美術館としては、多分皆さんの美術館も同様の問題を抱えていると思いますけれども、収蔵庫が非常に限られているということで、作品が大型化して、収蔵場所がとても少なくなっているということで、外部収蔵庫も借りている状態です。そういう状況で、寄託は原則受けないということでやっているのですけれども、今回例外的に受けたいと思います。

これは、まず一回寄託でお受けしてから寄贈に変更するという手順をとるため、今、調整中で、ここに寄贈の提案をしてあります。

米谷紅浪さんは、関西におけるピクトリアリズム写真の中心人物で、寄贈に向けて現在調整中でございます。

その中に1点、松浦一郎さん、やはり浪華写真倶楽部の作家ですけれども、1点入っております

それから、写真資料といたしまして、作品に準ずるような、例えば浪華写真倶楽部の撮影会の記念写真のようなもので、作品とは言えませんが、作家とこの時代のピクトリアリズムを考える上で貴重な資料ということで、写真資料としてお受けするという事になります。

次のページからはリストですので、割愛させていただきます。

とりあえず口頭での説明は以上ですけれども、何か御質問はございますでしょうか。

もし御質問がなければ、実見に移りたいと思います。

富岡文化施設担当課長：実見していただいて、その後で御質問でも。

笠原事業企画課長：よろしいでしょうか。

富岡文化施設担当課長：では、ちょっと場所を移動していただいて実見のほうを。

笠原事業企画課長：それでは、収蔵庫に参りますので、御案内申し上げます。

(委員離席)

(作品検分)

(委員着席)

富岡文化施設担当課長：何か御質問などはございますでしょうか。

笠原事業企画課長：評価額を書いていただくことになるのですが、途中でも何か質問がございましたらこちらで受けますので、作業に入っていただいたほうがよろしいですかね。途中でも結構ですので、何でも聞いてください。

富岡文化施設担当課長：それでは評価書ですが、3種類が一つづりになってございます。評価額を書いていただいて、最後に記名をしていただければと思います。ペンで御記入いただきたいと思います。

記入がお済みになりましたら、係の者が確認させていただきますので、お声がけいただければと思います。確認が終わった方から順次お帰りいただいて構いませんので、よろしくお願いいたします。

(委員評価表記入)

(委員退室)

午後6時50分閉会

以上